

第3回京都府自殺対策推進協議会

I 日時・場所

平成27年11月6日(金) 午後3時～5時
御所西京都平安ホテル「朱雀の間」(2階)

II 出席者

(1) 委員 (25名中15名)

河瀬会長、三木会長代理、石倉委員、久保委員、小林委員、近藤委員、下伊豆委員、竹本委員、
霍野委員、波床委員、平田委員、廣岡委員、丸井委員、山口委員、渡辺委員

(2) 京都府

本橋保健医療対策監、余田高齢社会対策監、廣瀬福祉・援護課長、大辻福祉・援護課自殺対策
推進担当課長

III 議事等

1 あいさつ

余田高齢社会対策監

2 協議(京都府自殺対策推進計画)

(府民の理解の促進)

- 「『京都いのちの日』シンポジウム」と記載すると、シンポジウムしかやらないと誤解されて
しまうおそれがある。シンポジウムの文言は削除したらいいいのではないか。[P.6]
- シンポジウム以外の世間の耳目を集めることができる取組をしていく必要がある。

(職域、学校、地域における体制整備)

- 生活保護受給者について「再起を期せるよう」という表現はどうかと思う。例えば、年金を
受給していても保護基準以下の暮らしを強いられている高齢者は辛い思いをするのではないか。
[P.9]
- 地域における体制整備の箇所、社会福祉協議会や民生・児童委員の役割を記載していただ
ければありがたい。[P.10]

(その他)

- 「チーム絆」、「職親事業」という言葉の定義が分からない。例えば、計画の最後に、用語解説
を入れたらいいのではないか。[P.11]
- 「自殺ストップセンター」の愛称やキャラクターを府民から募集してみてはどうか。

3 報告(「京都いのちの日」シンポジウム)

- シンポジウムに自殺対策の分野の著名人来ていただいても、一般の方の関心をひきにくい
ので、人選に工夫が必要である。
- 希死念慮者、自死遺族、一般の方などターゲットを絞り込んだり、目的を明確化することによ
ってアイデアが出てくるのではないか。

- 書店商業組合と連携したブックフェアは非常にいい取組だと思う。
- 京都に多数あるキリスト教会、寺社等の掲示板を活用して広報するのもいいのではないかな。
- 20歳代の若者に訴えかけるならば、デザインやビジュアルにもこだわる必要がある。
- 街頭啓発での相談先を記載したパンフレットの配付に引き続き取り組んでいけたらよい。大学の入学式等を活用するのもいいのではないかな。

4 あいさつ

本橋保健医療対策監